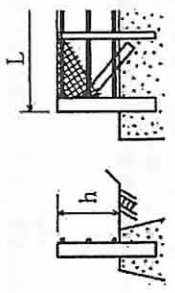


単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
5 林道編	1 林道	10 落石防止工	4		落石防止網工	幅	-200
						延 長 L	-200
5 林道編	1 林道	10 落石防止工	5		落石防護柵工	高 さ h	±30
						延 長 L	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 施工箇所毎		
施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
1 施工箇所毎		

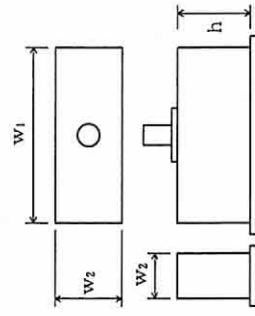
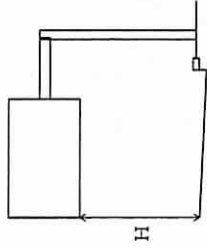
編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値		
								個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)	
5	2	3			歩道舗装工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工		基準高▽	±50	—	
							厚さ	t < 15cm	-30	-10
								t ≥ 15cm	-45	-15
						幅	-100	—		
5	2	3			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工		厚さ	-9	-3	
							幅	-25	—	
5	2	4			排水性舗装用路肩排水工		基準高▽	±30	—	
							延長L	—	-200	

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は片側延長40m毎に1箇所、割りで測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1箇所測定。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は、掘り起こして測定しなくとも良い。</p> <p>※両端部2点で測定する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個以上の割合で規格値を満足しなければならぬ。ただし、10個の測定値の平均値(X₁₀)について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
<p>幅は、片側延長80m毎に1箇所の割りで測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所コア一を採取して測定。</p>		
<p>施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1箇所、施工箇所につき2箇所。</p> <p>1箇所/1箇所</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
5	林道編	2 舗装	4		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高	±20
						各 部 の 厚 さ	±20
						各 部 の 長 さ	±30
						各 部 の 長 さ	±20
					(ラバーシユュー)	厚 　　さ	—
					(アンカーボルト)	中 心 の ず れ	±20
						ア ン カ ー 長	±20
5	林道編	2 舗装	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 w_1, w_2	-30
						高 　　さ h	-30
5	林道編	2 舗装	4		大型標識工 (標識柱工)	設 置 高 さ H	設計値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 箇所 / 1 踏掛版		
1 箇所 / 1 踏掛版		
1 箇所 / 1 踏掛版		
全数		
全数		
全数		
基礎一基毎		
1 箇所 / 1 基		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値		
5	林道編	3	橋梁下部		橋台躯体工	基準高 ∇	± 20		
						厚 さ t	-20		
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-10		
						天 端 幅 w_2 (橋軸方向)	-10		
						敷 幅 w_3 (橋軸方向)	-50		
						高 さ h_1	-50		
						胸壁の高さ h_2	-30		
						天 端 長 l_1	-50		
						敷 長 l_2	-50		
						胸壁間距離 l	± 30		
						支間長及び 中心線の変位	± 50		
						アンカーボルトの箱抜き規格値	鋼製支承	計画高	$-30 \sim +10$
								平面位置	± 20
								アンカーボルトの鉛直度	1/50 以下
							ゴム支承	計画高	$-20 \sim +10$
平面位置	± 20								
アンカーボルトの鉛直度	1/50 以下								

測定基準	測定箇所	摘要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
							コンクリート橋	鋼橋
5 林道編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)	±5	
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 ±10以上	
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	±5	4 + 0.5 × (B-2)
						下 沓 の 水 平 度		1 / 100
						橋軸方向		
						橋軸直角方向		
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差		5
						可動支承の 移動量 注3)	温度変化に伴う移動 量計算値の 1/2 以上	
5 林道編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)	±5	
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 ±10以上	
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	±5	4 + 0.5 × (B-2)
						支 承 の 水 平 度		1 / 300
						橋軸方向		
						橋軸直角方向		
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差		5
						可動支承の 移動量 注3)	温度変化に伴う移動 量計算値の 1/2 以上	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m)</p> <p>支承の平面寸法が300mm以下の場合、水平面の高低差を 1mm 以下とする。なお、支承を勾配なりに据付けける場合を除く。</p> <p>注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。</p> <p>注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。</p> <p>注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。</p>		
<p>支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。</p> <p>支承の平面寸法が300mm以下の場合、水平面の高低差を 1mm 以下とする。なお、支承を勾配なりに据付けける場合を除く。</p> <p>注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。</p> <p>注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。</p> <p>注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。</p>		

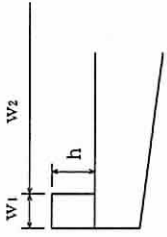
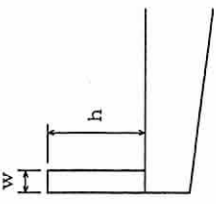
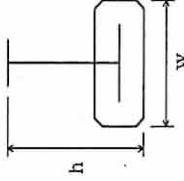
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
5 林道編	4 鋼橋上部	7 床版工	2		床版・横組工	基準高▽	±20
						幅 w	0～+30
						厚 さ t	-10～+20
						鉄筋のかぶり	設計値以上
						鉄筋の有効高さ	±10
						鉄筋間隔	±20
						上記鉄筋の有効高さがマインナスの場合	±10

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね10mmに1箇所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)		
1径間当たり3断面（両端及び中央）測定。1断面の測定箇所は断面変化毎1箇所とする。		
1径間当たり3箇所（両端及び中央）測定。 1断面の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	5		地覆工	地覆の幅 w_1	-10~+20
						地覆の高さ h	-10~+20
						有効幅員 w_2	0~+30
3 土木工事共通編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	6		橋梁用防護柵工	幅 w	-5~+10
						高さ h	-20~+30
5 林道編	5 コンクリート橋上部	3 プレベーム桁製作工	2		プレベーム桁製作工 (現場)	幅 w	±5
						高さ h	+10 -5
						桁 長 l スパン長	$l < 15 \dots \pm 10$ $l \geq 15 \dots$ $\pm (l - 5)$ かつ -30mm以内
						横方向最大タワミ	0.8 l

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレストレング後後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 l ：スパン長		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		規格値
						IP	方位角・交角	
5	林道編	1	林道		平面管理 (IP杭、No杭の位置)		方位角・交角	±1°
							IP間距離	±1% 最大150
							No.間距離	±1% 最大100
5	林道編	1	林道		縦断管理	計 画 高	高低差±100	
5	林道編	1	林道		横断管理	幅 員	土工定規以上	

測定基準	測定箇所	摘要
全IP		
全No.杭		
全No.杭 共通編2-3-2掘削工(切取)及び 2-3-3盛土工に準ずる。		緩和曲線を挿入しない箇所については、緩和曲線を挿入した場合を基準とする。
全No.杭 共通編2-3-2掘削工(切取)及び 2-3-3盛土工に準ずる。		